実践女子大学図書館蔵『大和物語』関連資料書誌解題

上野英子
山崎正伸

1　やまと物語（常磐松文庫蔵　写本三冊　「一」～「三」）

物語本文。

縹色布目地帙入り。帙表紙右肩に「物語」と墨書した紙片貼付。同左肩に「いせ／げんじ　やまと／たけとり　すみよし／よつき　まつほ／四季／尾崎雅嘉筆」と墨書した短冊題簽貼付。写本十冊（装丁・筆跡とも共通）のうち、三冊分が「やまと物語」。

袋綴（五孔・白糸）。表紙寸法二十三・四×十六・三糎。薄縹色布目地模様紙表紙。中央に無地書題簽（題簽寸法十六・六×三・五糎）貼付。外題「やまと物語一（～三）」と墨書。

見返し白紙。本文料紙三極紙。一丁オ白紙、本文は一丁ウより始まる。巻首題無し。片面十一行×行二十字内外。和歌は改行二字下げ、二行分ち書き、地の文がそのまま後続する。段序の記載はなく、章段の区別は改行による。序跋・奥書

・識語・書き入れ等なし。

旧蔵者印記無し。江戸末期の写本か。

本文は第一類二条家本系。但し、章段の並び方は通行本のそれと大きく変わっている。次に該書の段序を、今日流布している活字本（本稿では岩波古典文学大系「大和物語」を採用）における相当段数（〔　〕印を冠）で記す。

上冊……〔一〕～〔二八〕〔一四九〕～〔一六六〕

中冊……〔九一〕～〔一四八〕

下冊……〔二九〕～〔九〇〕〔一六七〕～〔一七三〕

同一丁のなかでも段序の飛躍がみられることから、錯簡等によるものではなく、底本を踏襲した結果であろうと思われる。

2　大和物語（黒川文庫四一　慶安元年〈一六四八〉版本　一帙二冊「上」「下」）

物語本文。

紺無地誂帙入り。

袋綴（五孔・白糸）。表紙寸法二十五・九×十八・二糎。黒色羅文地に花の型押紙表紙。左肩に無地複郭刷題簽（寸法十八・〇×三・七糎）貼付。外題「やまと物語　上（下）」。表紙右肩に、黒川家の分類印「物語」（単辺朱丸印）を捺し、上冊のみ右肩に「書入本」と朱書する。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（三周単辺・見開き内郭二十一・〇×十五・八糎。無界。十二行×二十字。版心記載事項無し。但

し上下冊各最終丁のどに「五十一」「下四十一」の隠丁付あり。）

下冊のみ、巻首題「大和物語下」あり。尾題「大和物語上終」「大和物語下終」。段序の記載なく、章段の区切りは改行で示す。和歌は改行二字下げ、二行分ち書きで独立記述。

刊記「慶安元孟春仲旬／二条通玉屋町村上平楽寺開板」（複郭二行罫紙）。

旧蔵者印記「親房蔵書」（単郭朱正方印）「字曰子明」（白文朱正方印）「定蔵」（単辺墨丸印）「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）「物語」（単辺朱丸印、黒川家）。

本文は第一類二条家本系。章段の分冊状況は以下の通り。

上冊……〔一〕～〔百三十三〕

下冊……〔百三十四〕～〔百七十三〕

今日流布本のそれと比較して、章段の区切り方にはまま異同がみられる。なお該書には切臨『大和物語首書』からの抄出とみられる朱筆書き入れが多数ある。

3　大和物語（黒川文庫四二　慶安元年版本　一帙二冊「上」「下」）

物語本文。

袋綴（五孔・後綴紫色糸）。表紙寸法二十六・三×十八・〇糎。縹色羅文地に花の型押紙表紙。左肩に無地複郭刷題簽（寸法十七・四×四・二糎）貼付。外題「大和物語　上（下）」。表紙右肩に、黒川家の分類印「物語」（単辺朱丸印）を捺し、上冊のみ右肩に「校合本」と朱書する。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（三周単辺・見開き内郭二十一・〇×十六・〇糎。無界。十二行×二十字。版心記載事項無し。但し上下冊各最終丁のどに「五十一」「下四十一」の隠丁付あり。）

下冊のみ、巻首題「大和物語下」あり。尾題「大和物語上終」「大和物語下終」。段序の記載なく、章段の区切りは改行で示す。和歌は改行二字下げ、二行分ち書きで独立記述。

刊記「慶安元孟春仲旬／二条通玉屋町村上平楽寺開板」（複郭二行罫紙）。

旧蔵者印記「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）。

朱筆校合書き入れあり。この校合本も同系らしく、異同は僅少。黒川家以前の書き入れと思われるが、識語・印記等の情報は無し。

4　大和物語（山岸文庫一一九八　慶安元年版本　一帙「上」「下」合一冊）

物語本文。

袋綴（五孔・後綴紫色糸）。表紙寸法二十六・〇×十七・六糎。縹色無地後補紙表紙。左肩に無地後補書題簽（寸法十七・八×三・八糎）貼付。外題「やまと物語」。表紙右下に、「山岸文庫」印（複郭朱長方印）。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（三周単辺・見開き内郭二十・八×十五・七糎。無界。十二行×二十字。版心記載事項無し。但し下冊最終丁のどに「下四十一」の隠丁付。上冊最終丁にあるはずの「五十一」は印字が薄く読めないが、それらしき痕跡はある。）

下冊のみ、巻首題「大和物語下」あり。尾題「大和物語上終」「大和物語下終」。段序の記載なく、章段の区切りは改行で示す。和歌は改行二字下げ、二行分ち書きで独立記述。

刊記「慶安元孟春仲旬／二条通玉屋町村上平楽寺開板」（複郭二行罫紙）。

旧蔵者印記、「松閣図書」（白文朱正方印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）。識語「昭和二十五年大呂二　湯島聖堂にて　岸廼舎」。

後代書き入れとして、章段冒頭と和歌の頭に鉤点代わりの○点を施したり、振り漢字・読みがな・清濁・異文表記等といった細字の朱筆が、前半部分にある。

5　大和物語（山岸文庫一一九九　慶安元年版本　一帙二冊「上」「下」）

物語本文。

袋綴（五孔・後綴白糸）。表紙寸法二十七・〇×十七・九糎。縹色羅文地に花の型押紙表紙。左肩に無地複郭刷題簽（寸法十八・二×三・七糎）貼付。外題「やまと物語　上（下）」。上冊表紙右下に、「共二冊」と墨書（山岸筆か）。右下に「山岸文庫」印。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（三周単辺・見開き内郭二十・八×十六・〇糎。無界。十二行×二十字。版心記載事項無し。但し上下冊各最終丁のどに、各「五十一」「下四十一」の隠丁付あり）。

下冊のみ、巻首題「大和物語下」あり。尾題「大和物語上終」「大和物語下終」。段序の記載なく、章段の区切りは改行で示す。和歌は改行二字下げ、二行分ち書きで独立記述。

刊記「慶安元孟春仲旬／二条通玉屋町村上平楽寺開板」（複郭二行罫紙）。

旧蔵者印記「木宮蔵書」（複郭朱長方印、その上に、単郭朱小型長方印の「消印」を捺す）「彰寿堂蔵」（白文朱正方印）「泉声」

（白文朱長方印）「山岸」（単辺朱小型丸印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）。識語「大正十（〇一）年応鐘念九　岸廼舎」。

後代の書き入れとして、墨筆による本文訂正（三条西家旧蔵伝為氏本にて訂正したもの）や、勘物等の注記がある。

6　大和物語（山岸文庫一二〇〇　文化二年〈一八〇五〉版本　一帙二冊「上」「下」）

物語本文。

袋綴（四孔・後綴白糸）。表紙寸法二十五・八×十八・二糎。薄縹色布目地模様紙表紙。中央に黄色地刷題簽（寸法十七・五×三・九糎）貼付。外題「大和物語　上」「やまと物語　下」。上冊右下に「共二」と墨書。二冊とも右下に「山岸文庫」印。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（無辺。字高二十・三糎。無界。十二行×二十五字。版心に巻序と丁付「上一（〜四二）」「下一（〜四一）」を記載）。

改行して章段を改める。和歌は改行二字下げ、後続の地の文がそのまま続く。本文には、読みがな・振り漢字・異文注記も刷られている。巻首題「大和物語」（上冊のみ）。下冊本文末に、拾穂抄所収の付載説話を転載。

鶴の屋翁跋文。

此ある本といふは、みやこなる村井のなにかしか／もたりしを、いんし年、ことのついてに見侍りしを、／こゝにかいあらはしはへるなり、さるはこのふみの／とちめ、所〳〵なほ心もとなきやうなるといふも、／それはた、此条のたぐひして、はる雨のふる屋の軒／端、かいもらせるにやと、わたくしには思ふたまへ〃らるゝなりけり。…

…鶴の屋の翁。

享和三年（一八〇三）大和物語抄広告掲載（「大和物語抄　北村拾穂軒著　全六冊／享和三年癸亥正月／書肆　東都西村源六／浪華渋川與左衛門」）。

刊記「文化二乙丑歳（一八〇五）四月吉日／皇都書林　鈴屋安兵衛（寺町通二條下ル町）板」。

旧蔵者印記「津山文庫」（単郭朱大型正方印）、そのうえに「□□蔵書」（単郭朱正方印）を重ね捺しする。

本文は第一類二条家本系。上下の分冊状況は慶安版本に同じだが、章段の区切り方に若干の異同がある。

また本篇終了後更に、

「北村法印いへらく、又ある本に、よのつねのほかなりし／事くはゝれり、そのてにをはを、いさゝかおぼつか／なき所などもあれど、たぐへる本を見侍らねば、改め聞えんもよしなし、さすがに捨かたき事ども／なれば左に書つらね侍るに」

として、付載説話がはいる。この異文は、終わり方が秋成本・冠注本・伴高蹊本と同様であり、拾穂抄とは別。

7　大和物語之抄（黒川文庫四六　承応二年〈一六五三〉版本　一帙六冊）

物語本文付き注釈。北村季吟著。「拾穂抄」とも。

袋綴（五孔・後綴白糸）。表紙寸法二十六・三×十七・九糎。黒無地紙表紙。左肩に題簽剝離の痕あるも、全冊題簽無し。第一冊目左肩に「大和物語抄　一」（墨書）、右肩に「北村季吟著　共六冊」（朱書、黒川家の筆か）。第二冊目から第四冊目までは、表紙左下に「二（〜四）」と冊序のみ墨書、第五第六冊目には何も記されていない。但し、第二冊目前見返しの袋の中に、剝離した題簽一枚（寸法十七・二×三・六糎）を貼付。無地に四周複郭で「大和物語抄　比」とある。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（四周単辺。内郭二十・九×十五・七糎。無界。片面十一行×二十一字。版心に記載無し。各冊冒頭丁ののどに「巻六やまと頌一」などの、隠丁付を入れる。）

源杏僊漢文序（序題「太和物語抄序」「洛陽後學源杏僊澣／毫于小盧堂之墨池」）。

巻首題「大和物語之抄」。料簡（五丁）。

物語本文を任意で区切り、改行二字下げで当該本文の注をしるす。和歌は字下げ無しの改行二行分ち書き。章段の冒頭も改行するが、区切り目が不明確のためか、該書には、章段の冒頭に「一段」等の段序書き入れ（朱筆）が施されている箇所もある。

宇多法皇の勘物のあと、次の三種の奥書を掲載。

「寛喜三年（一二三一）八月十四日辛未未時於北邊蓬屋終書（本奥書云）
寫之功閑居徒然之餘也目盲手振不成字推量而
染筆計也即校畢當初書寫物以無落字為一得耄
及之後已落數行書入之可恥可悲」

「此一帖以京極黄門自筆之本不違一字誂人令書（或本奥書云）
之但落字等繁多追而猶可加勘校者也
永享三年（一四三一）十月日　権少僧都在判」

「延徳二年（一四九〇）六月十一日以　禁裏御本令書寫頗可（又或本奥書云）
為證本者歟則校合畢」

次に、

「またある本によのつねのほかなりし／ことくはゝれりそのてにをはなといさゝ／かおほつかなきところなとも
あれとたく／へるほんを見侍らねはあらためきこえん／よしもなしさすかにすてかたき事とも／なれはことに
ひたりにかきつらね侍る」

として、異文（平中物語からの混入と思われる付載説話）を掲載。但し、「すゝりこひ出て」で中断。承応元年（一六五二）自跋（「壬辰十月中旬　洛下　拾穂」）。

刊記「承應二癸巳仲夏吉日　／中野小左衛門板刊」。

旧蔵者印記「濱□蔵書」（単郭朱正方印）「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）。

識語「明治元年三月十六日一読了　真頼」（朱筆）。

本文は第一類二条家本系。次に、各冊の分冊状況を記す。

第一冊目……〔一〕～〔二八〕
第二冊目……〔二九〕～〔九〇〕
第三冊目……〔九一〕～〔一三三〕
第四冊目……〔一三四〕～〔一四八〕
第五冊目……〔一四九〕～〔一六六〕
第六冊目……〔一六七〕～〔一七三〕〔付載説話〕

慶安版本の上下二冊をそれぞれ三分割したものだが、章段の区切り方には若干の異同がある。また巻末には新たに付載説話を付けた。

8　大和物語系図・大和物語別勘幷追考（黒川文庫四八　写本　合一冊）

系図・注釈

袋綴（五孔。後綴茶色糸）。表紙寸法二七・〇×二〇・一糎。茶色無地修補紙表紙。左肩に無地書題簽貼付。外題「大和ものかたり系図」（「別勘并追考」の題、記載無し）。右肩に黒川家の分類印「物語」（単辺朱丸印）を捺す。

見返し白紙。本文料紙楮。

【大和物語系図】

系図。著者不明（北村季吟か）。前遊紙一丁（オに隠外題「大和物語系図」、ウ白）。

巻首題「大和物語系図」。

桓武天皇から花山院までの皇統系図・閑院左大臣藤原冬嗣から兵衛のきみまでの家系図・伊勢の御以下十三名の略系図・大輔以下五十五名の略伝・「無名之作者」十九名の略伝と展開。奥書・識語無し。

本文は、『大和物語古注釈大成』所収本（底本、宮内庁本）とほぼ同じ。但し、頭注の一部を系図（人名）下の説明部分にもってきたり、頭注の文章に「明暦元年五月下旬追考之」の一文が欠けていたり、三十三名分あるべき「無名之作者」の項が十九名分しかない等の異同もある。また宮内庁本は「拾穂抄」「系図」「別勘」と三冊合綴だが、該書は押小路旧蔵本と同様、「系図」「別勘并追考」の二冊合綴。

【大和物語別勘并追考】

系図の最終本文がオでおわり、ウを白紙、次の丁から「別勘」が始まる。扉無し。
注釈。北村季吟著「別勘」「追考」からの抄出取り混ぜ本。
巻首題「大和物語別勘　并追考」。
片面十一行×行二十五字。筆跡は「系図」と同筆。
奥書・識語なし。
内容は、「大和物語之本有差異事」「此物語題号」「伊勢のこのうた巻頭に侍る事」等、別勘・追考の条々を抄出し、順序も取り混ぜて書写したもの。
旧蔵者印記「神田」（単辺朱丸印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）等。

9　大和物語首書（黒川文庫四五　明暦三年〈一六五七〉版本　一帙五冊）

物語本文付き注釈。一華堂切臨著。
袋綴（四孔・白糸）。表紙寸法二十二・三×十六・三糎。紺無地紙表紙。左肩に無地刷題簽（寸法十五・一×三・三糎）貼付。外題、第一冊目から順に、「大和物□□」「やまと物かたり　二」「頭書　やま□□かたり　三」「頭書　やまと物かたり四」「頭□　大和ものかたり　五」と記す。また第一冊目右肩に「大和物語首書　一華堂切臨著　共五冊」の朱書（黒川家の筆か）あり。
見返し白紙。本文料紙楮。版式（四周単辺。頭注形式。内郭十七・一×十一・八糎。うち頭注部分高さ五・八糎。無界。本行部分

十一行×十三字。版心には略題・冊序・丁付「や序一（〜四）」「や一　一（〜二十九）」「や二　一（〜二十九）」「や三　一（〜二十九終）」「や四　一（〜三十九終）」「や五　一（〜三十九終）」を記載。絵入）。

巻頭に料簡（「一、題号　二、作者　三、作意　四、古来称美　五、本の差異」）あり。

冊序（「上之一」「上之二」「上之三」「下之一」「下之二」）。料簡題・巻首題・尾題ともに「大和物語」。

各章段の冒頭は、改行一字下げ、頭に「●」印を冠する。和歌は改行一字下げ二行分ち書き。注は頭注（各注に「い」「ろ」「は」の記号を付け、下段の物語本文相当箇所にも同じ記号を振る）のほか、物語本文中にも行間注を記す。

巻末に宇多法皇の勘物と三種の奥書を掲載。拾穂抄からの転載とみられるが、版木を変えている。

「寛喜三年八月十四日辛未ノ未時於北邊蓬屋（本奥書云）
終書寫之功閑居徒然之餘也目盲手振不
成字ト推量シテ而染筆ヲ計也即校畢當（ソノ）
初書寫ノ物以無落字為一得耆及之後已ニ（カミ）
落シテ數行書入之可恥可悲」
「此一帖以京極黄門自筆之本不違一字誂（或本奥書云）
人ニ令書之。但落字等繁多追而猶可
加勘校者也
永享三年十月日　権少都在判」
「安徳二年六月十一日以　禁裏御本ヲ令書寫（或本奥書云）
頗可為證本者歟。則校合畢」

刊記「明暦三丁酉季仲春吉辰／谷岡七左衛門板行」。

旧蔵者印記「戸田文庫」（単郭朱長方印）「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）

識語「大和物語抄六巻刊于承応二年　先於此書四年也」（朱筆、真頼筆か）。

本文は第一類二条家本系統。各冊の分冊状況は次の通り。

「上之一」……〔一〕～〔五二〕

「上之二」……〔五三〕～〔一〇〇〕

「上之三」……〔一〇一〕～〔一三三〕

「下之一」……〔一三四〕～〔一五三〕

「下之二」……〔一五四〕～〔一七三〕

慶安版本と同じ箇所で上下をわけ、それぞれ更に細分化させていったもの。章段の区切り方にも若干の異同がある。

10　大和物語首書（常磐松文庫蔵　明暦版本　合二冊）

物語本文付き注釈。一華堂切臨著。

袋綴（四孔・後綴小豆色糸）。表紙寸法二二・三×一五・三糎。紺無地紙表紙。第一冊目外題無し（題簽が剝離したものか）。第二冊目、表紙中央に無地刷題簽（寸法一七・〇×二・八糎）貼付。外題「やまと物語　并首書四之五」（但し「四之五」部分は書き入れ）。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（四周単辺。頭注形式。内郭十七・二×十一・八糎。うち頭注部分高さ五・七糎。無界。本行部分十一行×十三字。版心には略題・冊序・丁付「や一　一（～二十九）」「や二　一（～二十九）」「や三　一（～二十九終）」「や四　一（～三十九終）」「や五　一（～三十九終）」を記載。絵入）。

巻頭に料簡無し。巻首題・尾題ともに「大和物語」。

巻末に宇多法皇の勘物と三種の奥書を掲載。

刊記「明暦三丁酉季仲春吉辰／谷岡七左衛門板行」。旧蔵者印記無し。

第一冊目に「上之一（～三）」、第二冊目に「下之一（～二）」を収録。五冊本を上下二冊に分冊しなおしたものだが、「料簡」部分を欠く。朱筆による鉤点の書き入れが散見。

11　大和物語首書（山岸文庫一一九七　明暦版本　合一冊）

物語本文付き注釈。一華堂切臨著。

袋綴（四孔・後綴茶色糸）。表紙寸法二十二・〇×十五・五糎。紺無地紙表紙。左肩に刷題簽剝離の痕があり、かろうじて「□　并首□三□」と読める。表紙中央に「大和物語□□」と外題を朱書。表紙には旧蔵者書票の残存かとみられる痕もある。

見返し白紙。本文料紙楮。版式（四周単辺。頭注形式。内郭十七・四×十一・四糎。うち頭注部分高さ五・八糎。無界。本行部分十一行×十三字。版心には略題・冊序・丁付「や序一（～四）」「や一　一（～二十九）」「や二　一（～二十九）」「や三　一（～二十九終）」「や四　一（～三十九終）」「や五　一（～三十九終）」を記載。絵入）。

巻頭に料簡あり。料簡題・巻首題・尾題ともに「大和物語」。巻末に宇多法皇の勘物と三種の奥書を掲載。

刊記「明暦三丁酉季仲春吉辰／谷岡七左衛門板行」。

旧蔵者印記、「東間」（単郭朱正方印）「巌松角山典部／波多埜浄鄭書」（単郭朱長方印）「山岸文庫」（複郭朱長方印）。

小口には冊毎にそれぞれ「大和」と書名を墨書する。五冊本として利用され、その後、一冊本に合綴したものか。その際、表紙には二冊本の刷題簽を援用したらしい。なお該書には「料簡」部分も収録する。

12　大和物語直解（黒川文庫四四　文政七年〈一八二四〉書写　一帙三冊）

物語本文付き、注釈書。宝暦十年（一七六〇）賀茂真淵著。寛政五年（一七九三）安田躬弦編。文政七年（一八二四）岡本保孝写。

袋綴（四孔・白糸または紫色糸。いずれも後綴）。表紙寸法二十三・五×十六・三糎。表紙おもては小豆色無地、規は縹色羅文地の紙表紙。表紙左肩に題簽剝離の痕があるが、全冊外題無し。但し第二第三冊目前見返しに、それぞれ「大和物語直解　地」「大和物語直解　人」と墨書した複郭無地書題簽（寸法十六・〇×三・二糎）を貼付。また第一冊目表紙右肩に、「岡本況齋翁親墨／安田躬弦著／共三冊」と朱書（黒川真道か）。

見返し白紙。本文料紙楮。安田躬弦凡例（凡例題「大倭物語直解凡例」）。

この物語の注世におこなはれたるはふやうなる事もひかめる／もいとおほくなんありけるさるを縣居の大人つはらかに考正して／もとの注をけちあるはかきくはへなとし給へりしを我友村田／晴海ぬしが家にひめおけりそを

こひうつしてこたひはうしのほいのまゝにかきつらねたりいちはやくことの意をおもひ／とかんれうにとてし給へるなれはしはらく大倭物語直解／となんこれが名をはおほせにける……

寛政五年九月源躬紘

真淵序「……宝暦十年の冬人々つどひてよみける時に賀茂真淵しるす」。

巻首題「大和物語直解　上巻（中巻・下巻）」。片面十四行×行二十八字。

物語本文を任意で区切って、改行二字下げで当該段に関する注をしるす。和歌は改行一字下げ、二行分かち書きで独立記述。各章段冒頭に○印を冠した漢数字を置く。

真淵跋「宝暦十年七月よりたま〳〵あつまりてひとわたり／よみておなしく十二月の八日によみはてつ一月に／三度よたひなんよみける也もとの注のあしきを／はおほくけしつそのむしろにさま〳〵のよし／なしことをもいひわたらひなからたま〳〵かきつ／けたれはそれはたわろきこともおほかりなん／賀茂真淵」

奥書「文政甲申（七年、一八二四）秋八月借得

泊洒舎（清水濱臣）識蔵本而手自写之与中村

光房對読了岡本保孝識

文政丙戌（九年、一八二六）春三月与粕屋重浪對読夏四

月卒業

安政二年（一八五五）二月上旬与細君對読了」

旧蔵者印記「黒川真道」（単郭朱長方印）「物語」（単辺朱丸印、黒川家）。

本文は第一類二条家本系。巻首題の記述からみて、三冊に分冊したのは当初からの構想によるものであろう。各冊分冊

状況は以下の通り。

上冊……〔一〕～〔九〇〕（但し該書の段序では九二と記す）

中冊……〔九一〕（九三と記す）～〔一四八〕（一五〇と記す）

下冊……〔一四九〕（一五一と記す）～〔一七三〕（一七九と記す）

〔付載説話〕（一八〇と記す）今は昔ふたりしてひとりの女を…

〔付載説話〕（一八一と記す）おなじをとこしれる人のもとに…

〔付載説話〕（一八二と記す）女のおもふをとこをしてたしかに…

〔付載説話〕（一八三と記す）西の京六条わたりに所々…

付載説話最後の章段は「すゝりこひ出て」で中断する、いわゆる拾穂抄形式をとりつつも、更にその次、「師云以下以秋成本引村井古巌本補之其補如左」として、「しらなみのかへる〳〵もかへりきぬへし」（付載説話一の終わり）までを追記する。

なお上欄余白には頭注形式で、真淵説のほか、濱臣・躬弦・保孝その他の説が加わっている。また物語本文中にも朱墨書き入れがあるが、朱筆のなかには黒川真道かと思われるものもある。

「賀茂真淵全集」第十六巻（昭和五十六年　続群書類従刊行会）所収「大和物語直解」に底本として採用されたもの。

13　冠注大和物語（黒川文庫四三　嘉永六年〈一八五三〉版本　一帙三冊）

物語本文付き、注釈。嘉永六年（一八五三）井上文雄著。

袋綴（五孔。白糸、但し一、二冊目は後綴青糸）。表紙寸法二六・三×一八・四糎。薄縹色布目地模様紙表紙。表紙中央に無地刷題簽貼付。題簽寸法一八・九×四・〇糎。外題「冠注大和物語　上（中・下）」。また第一冊目のみ、表紙右肩に「井上文雄著」と墨書。見返しに封面題「井上文雄著／冠注大和物語／考槃荘蔵梓」。

本文料紙楮。嘉永六年五月五日自序（割注部分に〔　〕印を冠）。

「…此書いま本文は季吟法印の抄本によれり〔袋草子云和哥二百七十首此中連哥三首／但本々不同云々今の世に傳はれる本はいつ／れも哥数二百九十二首／連哥三首也〕／さて慶安元年印本・活字本・群書／類従本・頭書本・山岡明河自筆本〔明河頭書せんの志有と／みえて所々に今按をし／るしたれととるへき／ことはすくなし〕／・安田躬弦か直解本〔真淵の説を／あけたり〕・上田秋成／か校正本外に古写本二本をもて校合せり／〔慶安本／活字本／群書類従本は大かたおなし頭書本山岡本躬弦本は季吟本によれりと／みゆ秋成本は杜撰に直したりとおほしき所々みゆれは大かたはとらす〕…」。

版式（無辺無界。頭注形式。本行片面十行×行十九字、注小双行。版心に丁付けあり、「序一（～四）」「一（～百三十五）」本文部分は第一冊目から第三冊目まで通し丁付け）。

章段は改行して区切る。和歌は改行二字下げ二行分ち書き独立記述。物語本文にも校合・振り漢字・和歌出典等の行間注が加わる。

刊記「校合／加藤千浪　草野御牧　横山由清　伊藤頴則／嘉永六年五月」。

旧蔵者印記「黒川真頼蔵書」（単郭朱長方印）「黒川真頼」（単辺朱丸印）「黒川真道蔵書」（単郭朱長方印）「物語」（単辺朱丸印、黒川家）。

本文は第一類二条家本系。各冊分冊状況は以下の通り。

第一冊目……〔一〕～〔九六〕

第二冊目……〔九七〕～〔一四八〕
第三冊目……〔一四九〕～〔一七三〕

以下、改丁。「異本」として付載説話一を掲載し、この部分には頭注がない。比較的詳細な校合掲示が本書の眼目か。

14　大和物語鈔（黒川文庫四七　写本　一冊）

物語本文付き注釈。著者未詳。

袋綴（五孔。後綴白糸）。表紙寸法二十八・五×二十・一糎。香色無地修補紙表紙。左肩に外題「大和物語鈔」、右下端に「十七」と墨書。右肩に黒川家の分類印「物語」。見返し白紙。本文料紙楮斐漉き交ぜ。

扉・前遊紙・序無し。

料簡一丁。片面二十行×行五十字。二丁オより本文編が始まる。

巻首題無し。本文編では物語本文を匡郭で囲み、匡郭内部に物語本文と行間注、匡郭の外周に細字注を書き入れる。内郭寸法十八・四×十四・七糎。匡郭内は片面十一行×行二十二字、和歌は改行二字下げ二行分ち書きの独立記述。

物語本文および匡郭内外の注、いずれにも、全冊朱筆書き入れがある。これらの朱は、朱引き・鉤点・句点・濁点・系図の線・本文訂正・短い注記・並びの指摘・「是説非也」といった既述の注に対するコメント等、多岐にわたり、筆跡も一様ではない。

墨筆書き入れも物語本文と同筆のもの・若干ことなるもの（識語と同筆か）等、複数。

また本行・書き入れ注ともに胡粉で訂正した例がある一方、荒く墨消ちにした例もある。当初は清書本として作られたものの、所持者が替わると、今度はその人物の心覚えなども書き込んでの手沢本として利用されてきたためか。

識語「釋窠所持」。旧蔵者印記「光鳩」（白文。瓢箪型朱印）。

該書については、「別冊年報」等で翻刻や解題を発表する予定である。